

會 報

役 員 會

第 1 回常議員會 (昭. 19. 2. 21)

出席者: 鈴木會長, 佐土原副會長, 石川常議員外 9 名
辰馬前會長, 中村書記長, 小野寺庶務主任外
2 名

議 事

1. 昭和 19 年度理事選舉の結果次の諸君選任
理 事 杉戸 清君 大森義文君 本間 仁君
德善義光君 大川一郎君 黒田靜夫君
2. 昭和 19 年度部長に次の諸君就任
總務部長 杉戸 清君 經理部長 大森義文君
編輯部長 本間 仁君 調査部長 德善義光君
法制部長 大川一郎君 東亞部長 黒田靜夫君

3. 入退會を別記の通り承認

第 1 回理事會 (昭. 19. 3. 6)

出席者: 鈴木會長, 佐土原副會長, 杉戸理事外 5 名,
中村書記長, 小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 日本工學會評議員會議事

議 事

1. 中部支部長に富永正義君を依頼
2. 會誌編輯委員會委員長及委員に次の諸君を依頼
委員長 本間 仁君
委 員 東 壽君 新井義輔君 一木保夫君
岡本舜三君 奥田敬朝君 草間康二君
扇田彦一君 平井 敦君 藤森謙一君
星 莖 和君 村山朔郎君
3. 正會員 藤芳義男君の一時納付會費 120 圓を基金に編入
4. 土木學會誌實費講讀者に對し論文集を頒布することとせり
5. 本會内に全科技聯第 3 部會(土木部會)事務所を置く事に就ては次回更に協議することとせり
6. 日産會申入に依る土木關係の發明發見推獎資料に關しては調査部長に一任
7. 本會創立 30 周年記念事業に關しては次回更に協議することとせり

以上の外會長権限の擴張, 委員會調整等に就き協議せり

總 務 部 記 事

第 15 回建設機械研究委員會 (昭. 19. 2. 16)

出席者: 本間第 2 部委員長, 川村委員外 2 名, 小野寺庶務主任, 宮澤囑託

協議事項

1. 前回に引續き河川關係機械水準調査報告書の検討を行ひたり

編 輯 部 記 事

第 3 回會誌及論文彙編輯委員會 (昭. 19. 3. 7)

出席者: 本間委員長, 東, 扇田, 星莖, 一木, 平井, 奥田, 草間, 新井各委員, 鈴木, 内村, 佐藤各囑託 上田書記

1. 第 30 卷第 4 號登載原稿決定
2. 6 月號論文集登載原稿決定
3. 編輯上事務局に従ひ應變の方針を定むる件に付協議し大略を決定

中 部 支 部 記 事

第 1 回役員會 (昭. 19. 2. 9)

出席者: 花井支部長, 永田前支部長, 石川評議員外 13 名, 比企野幹事長, 伊吹幹事外 2 名

議 事

1. 支部長改選の件
2. 昭和 19 年度年中行事の件
支部長選舉

當 選 富永正義君

西 部 支 部 記 事

第 1 回役員會 (昭. 19. 2. 26)

出席者: 後藤支部長, 三瀬, 松尾兩前支部長, 田中商議員外 6 名, 大野幹事長, 橋川幹事外 3 名

議 事

1. 本年度事業計畫及收支豫算の件
2. 退任役員に對する記念品贈呈の件

中國四國支部記事

支部長選舉

當選 北澤忠男君

滿洲土木學會記事

第 1 回役員會 (昭. 19. 2. 3)

出席者: 本間會長, 坂上副會長, 照井常議員外 5 名,

濱主事

議 事

- 1. 第 4 回通常總會開催の件
- 2. 更正豫算に関する件
- 3. 編輯委員一部更新の件
- 4. 役員選挙の件

日本工學會記事

評議員會 (昭. 19. 1. 14)

議 事

- 1. 日本能率協會並に日本原價計算協會本會加入の件
- 2. 定款變更の件
- 3. 昭和 19 年度豫算の件
- 4. 次期役員選出の件

そ の 他 記 事

土木學會誌第 30 卷第 3 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり

入 會 及 轉 格 會 員

正 會 員 (入 會)

梶本義男 野中典悦 渡邊敬介 酒井正

准 會 員 (入 會)

青木鶴男 田邊邦美 櫻井正美 中村龍雄 鈴木力衛 濱野松五郎
小坂橋信夫 福本成左衛門 松永榮造 増田秀雄 山田正三

學 生 會 員 (入 會)

周千之助	井島武士	淺間隆	伊井忠夫	石黒三郎	小倉文雄
大原弘行	上西博	栗山文男	小池正之輔	新保鐵夫	鈴木仁麿
高嶋剛	種市鴻二郎	辻内弘	西田勤	林堅三	本多淵之
室峯修	毛利弘二	矢崎晋	山田清	相澤一男	岩福田勝
金原圭重	川浦潔	國家義則	城坂孝	飯島哲之助	池田勝裕
藤田圭一	山内柱	青柳好郎	五十嵐健治	岡井清昭	今長田林
石原三次	石原三千雄	磯部盛次	市川一郎	小田健二	小清水美彦
小笠原三章	小田切八郎	小谷敏之夫	小野岩三夫	小林伊佐忠	田中重雄
神谷嘉夫	唐澤俊一	熊崎尙哲	山坂澄治	清水田武	杉山利賢
近藤嘉夫	篠原眞	篠原泉	島口武八	田中司郎	中島場正
鈴木健之治	鈴木照雄	内匠大治	竹本郷繁	土田長	馬保三
高橋寛一	高柳隆	竹井邦	西原多	藤森經	
永田小	林周	原宏	井	松	
林兵	田本	須			
細					

三遠渡 科藤邊 澄芳良 男春逸 宮崎井 哲夫務 宮下庄司 望月一三 望月山口 一郎欣一 金谷重三郎 吉田信一 加島啓一 渡邊通

正 會 員 (轉 格)
布袋謙作 米元卓介

准 會 員 (轉 格)
江崎健一郎 岡三金明 內山英明 辛實鶴眞馬 劉 坂王延武 立萊永宗 村豐元 原部宣浩 晉藝夫 中順義 林勇恒 毅雄士 種王松岡 坂北孫 張中董 官田牧 田忠時 本野 山善三 江殿 岡富 義昭 貢彦 優郎 安壁 陸海人 宮本鳳 山口勝圭 仁翼 尊文 經繩多 明書也 吾海民 三俊 維武昌 安解岩角 杉合 飛陳 二中 楊 振寶 崎江 尾志 侯村 忠 聲堤士 登太郎 淳欽 堯夫 正民 宇都宮 乃田 松谷 周趙 塚藤 中李 芳乃 倍由 鶴連 自本 尾村 紹 雄立 種晃 青俊 亮文 男雄 倫

士 木 學 會 々 員 數

(昭. 19. 2. 21 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	資助會員	合 計
3	4673	7387	2229	215	25	14532

正會員 森田三郎君は昭和 19 年 2 月 23 日逝去せられたり 本會は靈前に 弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 中津光藏君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 吉田 元君 南方に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞 を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 増田正次君 昭和 18 年 4 月 28 日南太平洋方面に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 向井勝政君 昭和 18 年 4 月 28 日南太平洋方面に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 川口武壽君 昭和 18 年 11 月 12 日中支方面に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 小川九十九君 町田芳雄君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

學生會員 福田文男君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

會 報

役 員 會

第 2 同常議員會 (昭. 19. 3. 22)

出席者: 鈴木會長, 内海, 佐土原兩副會長, 杉戸常議員外 12 名, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

報 告

1. 西部支部役員會議事
2. 中部支部役員會議事
3. 滿洲土木學會役員會議事
4. 航空局長官より飛行場急遽建設の新構想入選論文に對し賞金寄贈あり受領
5. 日本工學會工學大會開催延期

議 事

1. 中國四國支部長に北澤忠男君當選依頼することとせり
2. 中國四國支部昭和 19 年度收支豫算の別紙(省略)の通り承認することとせり
3. 西部支部昭和 18 年度收支決算を別紙(省略)の通り承認することとせり
4. 西部支部昭和 19 年度收支豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり
5. 鐵道工事統制強力會よりの 寄贈金 30 000 圓は受領することとせり
6. 日産會へ發明發見推奨資料として戸川豪君の抜根作業其他鐵道關係のものを詮衡し推薦することとせり
7. 入退會を別紙(省略)の通り承認することとせり
8. 苛烈なる決戦下に於て土木學會は何を爲すべきかに就て全常議員の意見を求め攻究することとせり

第 3 同常議員會 (昭. 19. 4. 17)

出席者: 内海, 佐土原兩副會長, 杉戸, 本間, 黒田, 伊藤, 下山, 星莖, 山岡, 吉原各常議員, 眞田, 辰馬兩副會長, 小野寺庶務主任, 岩塚編輯主任

議 事

1. 一時納付會費(星野茂樹君 120 圓)を基金に編入することとせり
2. 日本工學會評議員に杉戸清君を選出することと

せり

3. 常議員大森義文君轉出に依る補缺選舉は行はず缺員の儘とすることとせり
4. 理事大森義文君の補缺選舉は會長に一任することとせり
5. 入退會の件別紙(省略)の通り承認することとせり
6. 「苛烈なる決戦下に於て土木學會は何を爲すべきか」に就て出席役員の提案に對し協議の結果次回引續き検討することとせり
7. 各種委員會を整理することとせり

編 輯 部 記 事

第 4 同編輯委員會 (昭. 19. 4. 5)

出席者: 本間委員長, 星莖, 藤森, 扇田, 一木, 新井, 各委員, 岩塚編輯主任, 鈴木, 内村, 佐藤各副記, 上田書記

議 事

1. 原稿審査報告
2. 第 30 卷第 5 號會誌登載原稿決定
3. 第 30 卷第 4-5 號を合併し 1 冊として發行する件
4. 原稿依頼に関する件
5. 會誌及論文集印刷進行に関する件協議

關 西 支 部 記 事

第 2 同役員會 (昭. 19. 4. 10)

出席者: 高橋支部長, 城戸商議員外 6 名, 大塚幹事長外 3 名

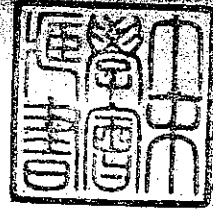
議 事

1. 昭和 19 年度事業計畫に関する件
2. 土木事業計畫審査委員會に関する件

朝 鮮 支 部 記 事

第 1 同役員會 (昭. 19. 4. 11)

出席者: 清水支部長, 本間前支部長, 安宅評議員外 8



名、小田幹事長外 3 名

議 事

1. 昭和 18 年度收支決算の件
2. 昭和 19 年度收支豫算の件
3. 支部事業に関する件
4. 名簿作成及前支部長記念品贈呈の件

議 事

1. 役員選挙の件
2. 土木滿洲掲載優秀論文受賞者決定の件
3. 通常總會並講演會に関する件
4. 書記長交代の件
5. 會員移動の件

滿洲土木學會記事

そ の 他 記 事

第 2 回役員會 (昭. 19. 3. 25)

出席者: 本間會長, 鈴木, 坂上兩副會長, 照非常議員
外 2 名

土木學會誌第 30 卷 4 號を發行成規の手續を了し
會員に配布せり

入 會 及 轉 格 會 員

(昭. 19. 3. 22)

特 別 會 員 (入 會)

今 道 組
山陽電氣鐵道株式會社
明治製糖株式會社

今道定治郎	3 級
高木茂一	2 級
藤野幹 小塚泰一	2 級

正 會 員 (入 會)

安藤白	藤田石	貢弘晴	木野高	村口浪	博口巳	夫濟月	熊工中	本藤武	喜精一	代司一	小紺道	松野越	公豐昇	一吉昇	清佐入	水々木	良木史	一靜郎	田口武	口野七	武三吉	一倉一
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

准 會 員 (入 會)

井川會	出畑山	修秀喜	齋一作	糸河館	永崎政	忍男治	岩木寺	永村岡	貞滿正	雄徹雁	上田水	滋野與	賀紀繁	雄夫增	太鴻目	田野黑	武正大	義弘二	上吹越	吹藤澤	三春正	雄元庚	三吉元	三浩敏	三次當	雄吉元	元庚雄	郎忠
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

學 生 會 員 (入 會)

野久雄	近藤士	藤川嘉	郎嘉	中橋小	太郎	藤川武	信三	浦涉	村山邦	夫
-----	-----	-----	----	-----	----	-----	----	----	-----	---

正 會 員 (轉 格)

尾之内	由紀夫	西森寬	小川元	石尾進
-----	-----	-----	-----	-----

准 會 員 (轉 格)

小林清	坂田良	太	小林誠	一郎	野口守	男
-----	-----	---	-----	----	-----	---

土 木 學 會 々 員 數

(昭. 19. 3. 22 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合 計
3	4689	7426	2232	218	25	14593

中國四國支部役員

支部長 評議員 幹事	北赤西松工 長	澤松東下藤 長	忠三慶幹夫 長	男郎治雄夫 長	幹事	荒壁三桑 長	川田宅原 長	龍勝秀竹 長	雄藏太二 長	奧成三佐 長	崎松上利 長	益清三 長	美雄昭雄 長	佐廣竹 長	藤長重 長	東良貞 長	次良貞 長	郎一殿 長
------------------	------------	------------	------------	------------	----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	----------	----------	----------

臺灣支部役員

支部長 評議員 幹事	松阿磯白前濱 長	本部田木田 長	虎貞謙民余正 長	太壽雄次雄彦 長	幹事	池上竹增坂 長	田野村谷本 長	季三俊敏 長	苗郎一悠一 長	石北谷山田 長	井川口下島 長	林幸 長	次三廣繁正 長	郎郎三造彦 長	石篠圖山牧 長	塚原子本野 長	久國武八 長	展憲八格郎 長
------------------	-------------	------------	-------------	-------------	----	------------	------------	-----------	------------	------------	------------	---------	------------	------------	------------	------------	-----------	------------

會誌編輯委員會委員

委員長 委員 編輯	本東真藤岩 長	岡田森塚 長	仁壽朝一三 長	教謙良 長	新草星 長	井間楚 長	義康 長	輔二和 長	一扇村 長	木田山 長	保彦朔 長	夫一郎 長	岡平 長	本井 長	舜 長	三教 長
-----------------	------------	-----------	------------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	---------	--------	---------

滿洲土木學會役員

會長 總務部長 調查部長 常議員	本高吉 長	間野村富洲淵三味島 長	德與之 長	雄作助 長	實肇治 長	副會長 經理部長	鈴木原 長	長健 長	明二 長	吉辰 長	川村 長	宥國 長	直治 長	坂山 長	具平 長	上田 長	丈武 長	三保 長	郎一 長
---------------------------	----------	----------------	----------	----------	----------	-------------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

昭和19年4月25日印刷 昭和19年5月1日發行(定價金2圓)

編輯兼發行者 東京都牛込區南町33番地 中村孫一

印刷者 東京都神田區美土代町16番地 (東京35) 倉澤直男

印刷所 東京都神田區美土代町16番地 株式會社三秀會

東京都麴町區丸ノ内3丁目6番地

發行所 社團法人土木學會

電話 丸ノ内(23) 3945番, 換替口座東京16828番

會 告

1. 會誌發行遲延に就て

昨年の末頃から印刷所では工具の激減、諸材料の拂底で、會誌も自然進行を妨げられ順押しに月々發行が遅れてゐることは、誠に遺憾に堪へません。殊に最も苦痛を感ずるのは、用紙配給のことで、校正を終つてから數週間も印刷が出来なかつた例もあり、又配給紙を受取つても、それは新聞用の巻取紙の爲め、截斷に夥しい手數と日數を要するなど、總べてが悪い條件ばかりで遲延を重ねてゐる次第であります。併し編輯部では種々回復の方法を講じてゐますから、漸次整頓し得ると思ひます。

2. 論文集に就て

本年3月に初號發行の豫定でありましたが、會誌と同様前項に述べたような状態で、甚だ遲延しましたが3月號は8月に發送致しましたから、御受取のことと思ひます。次の號も目下進行中であります。尙3月號に掲載の豫定でありました。

砂の運動機構に就て (1) 正會員 工學博士 最 上 武 雄

車輪に依り軌條に與へられる側壓應力に関する一試験 (第1報)

正會員 神 谷 修 作

の2項は、用紙不足と都合上次の6月號に掲載することになりましたから御諒承を願ひます。

3. 水理公式集に就て

昨年12月發行の豫定でありました本書も容易に着手するに至らず遲延しましたが、最早大凡校正を終りましたから、一二ケ月中には出來の見込であります。

4. 本號は4~5號を合せて一冊としました。

土 木 學 會

會 告

科學技術者の創意考案募集に就て

緊迫せる戦局を打開し完勝を期する爲め政府に於ては豫てより國民創意の昂揚吸収を行ひ卓抜なる考案の急速戦力化に努めつゝあつたが、科學技術者の創意はその最も的確なる効果を發揮し得る點に於て到底一般國民の創意とは比すべきもなく、今日國家が科學技術者に期待しつゝある處極めて大なるものがある。

技術院では今般科學技術専門家の智能動員の徹底を期し、その卓抜優秀なる創意考案を募り速かに之が活用戦力化を圖ることになつた。仍て本會に於ては技術院の全面的な指導竝に全日本科學技術團體聯合會の提唱の下に、關係學協會と協力し全國の科學技術者に呼びかけ創意昂揚運動を展開し、各位の智能報國の熱誠に應へ以て國家の要請に副はんとするものである。

次の募集要項参照の上奮つて御提出あらんことを切望する。

科學技術者創意考案募集要項

一. 創意考案の内容

(イ) 創意考案は技術上の隘路打開に關するものは勿論、研究途上にあるもの又は研究の一部或は單なる着想でも結構である。

亦各自の専門たると専門外の分野に屬する事項たるを問はず、凡そ戦力増強に役立ち得ると思はれるものならば、兵器に關するものでも、生産に關するものでも又は國民生活に關するものでもよいから斬新卓抜なるものを廣く提案されんことを期待する。

(ロ) 發明考案にして既に特許又は實用新案に登録せられてあるものは之を除外する。

(ハ) 創意着想の手がかりとして別項の如き課題を例示することとした。勿論參考範圍のものに過ぎないが、これに依つて募集に對する大體の意圖竝に方向を推測されたい。

二. 創意考案の提出

(イ) 創意考案の提出には別段様式を定めない。有合せの用紙でよいから一件宛書面を以て提出すること。

(ロ) 創意考案は會員は本學會長へ提出すること。但し本學會會員以外の場合は社團法人全日本科學技術團體聯合會長(東京都芝區新橋三丁目二番地四)——略稱、全科技聯——へ提出すること。

三. 創意考案の取扱

(イ) 受理した案件は本會に於て番號を附し受理の通知を爲す。全科技聯受理の場合も同様である。

(ロ) 提出案件に就ては秘密取扱とし濫りに他に發表するやうなことはない。

四. 締切期日

昭和十九年十月末日

五. 創意案件の審査

(イ) 受理した案件は本會に於て分類整理の上、全科技聯内の各専門部會毎に設置せる審査委員會に附す。必要に應じては他の専門機關とも協力審査し周到完璧を期する。

(ロ) 審査の結果は直ちに之を技術院へ申達し、技術院に於ては之が採擇を決定する。

六. 活用の方法

採擇された案件はその内容に應じ技術院に於て夫々軍當局、關係官廳、研究所、生産現場等必要